



専門基礎科目	人間発達学演習	ライフステージごとの発達の視点をフィールドワーク、およびグループワークを通して、自ら情報収集し、他の学生と共有することで理解を深めることを目的とする。	1. 各ライフステージの発達の特徴を理解し説明することができる。 2. 発達検査について、目的および技術の理解と適切な解釈を説明し、実施することができる。 3. 幼児の発達の特徴を理解したうえで、遊びを思索し、提供することができる。 4. 幼児への接し方、興味関心の引き出し方など実際の経験をもとに適切に対応することができる。 5. 近年における社会環境の中で、子どもをとりまく環境について考察しまとめることができる。	△	○	◎	○	◎	◎	○	◎	○
専門基礎科目	臨床運動学	運動学やバイオメカニクスは人間の動作や運動を注意深く分析するうえで役立つ。解剖学・生理学・運動学で学んだ内容を踏まえながら、動作や運動との関連性について考え、より臨床的な思考力を養う。	1. 運動学の視点から、臨床で良く目にする様々な疾患の事象、要因を説明できる。 2. 疾患に合わせた運動や現象を説明でき、訓練プラン作成における、根拠のある事象の機序を説明出来る。	△	○	◎	○	△	△	○	○	○
専門基礎科目	疾病と障害総論	基礎医学の中核にある病理学のみならず、リハビリテーション医療に関わる循環障害、炎症・感染症、免疫異常、代謝障害、遺伝や腫瘍について病因や病態の視点から疾病と障害の関連について学ぶ。 医学的リハビリテーションにおける病理学的アプローチの基礎を学ぶとともに、内科学の対象となる各臓器の形態と役割ならびに機能を理解する。その基本を踏まえて、各種疾患の発生メカニズムを学び、それがどの様な症状や障害をもたらすかを理解する。	今後学ぶ各臨床医学教科における病態と障害の関連を理解するための基本的知識を学び、疾病や障害の病因や病態、治療過程を理解し、これらの関連を病理学的視点から学び述べる事ができる	◎	○	○			△		△	△
専門基礎科目	臨床医学基礎論	リハビリテーションの対象疾患・障害の病態や発生メカニズムを理解する上で重要となる診断学、検査法、臨床薬理、栄養学、画像診断学、急変時の対応の基本を学ぶ。	1. リハビリテーション対象疾患に関する診断について説明することができる。 2. リハビリテーション対象疾患に関する臨床検査データ、画像について説明することができる。 3. リハビリテーション対象疾患に多く使用される薬の薬理効果・副作用について説明することができる。 4. 疾患特有の栄養指導について説明することができる。 5. 急変時の対応、処置について説明することができる。	○	◎	◎						
専門基礎科目	神経系障害とリハビリテーション	各種神経疾患の病態、症候と診断を学び、生活機能に影響する高次脳障害、運動感覚障害などを評価し、対応する治療計画や診療実践の理解を深める。患者や障害者の生活機能に影響するさまざまな症状(高次脳機能障害、運動感覚障害など)を評価し、対応する治療計画や診療実践の理解を深める。	1. 神経系障害の評価とリハビリテーションについて理解し、説明できる。 2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法について説明できる。	○	◎	◎	○				○	○
専門基礎科目	骨・関節障害とリハビリテーション	骨・関節の機能障害をもたらす外傷や疾患は、医学的リハビリテーションにおいて頻度の高い重要な位置を占め、四肢・体幹の外傷や疾患を担う整形外科学、診断学、治療法、さらに身体部位別に外傷と疾患、全身性疾患やスポーツ障害を学び、運動器リハビリテーションの理解を深める。運動器の疾病や外傷による機能障害の病態、診断、治療過程を理解し、リハビリテーションにおける機能・構造、活動と参加の評価と対応を修得する。	1. 運動器障害について病因、病態と症状について説明し機能評価ができる。 2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法について説明できる。	○	◎	◎	◎		△		○	○
専門基礎科目	内部障害とリハビリテーション	呼吸・循環・代謝の反応を運動生理学の観点から理解し、運動生理学的知識を基に、内部障害疾患の病態、障害、治療について学び、内部障害のリハビリテーションについて理解を深める。	呼吸、循環、腎臓、小腸、免疫、代謝系の生理学について説明する事ができる。病態理解のため必要は評価項目をあげる事ができる。一般的な運動療法の内容やADL指導上の留意点を説明することができる。	○	○	◎	○					
専門基礎科目	発達障害とリハビリテーション	胎児期からの人間の発達による変化を理解し、小児医療の視点から、年齢固有の疾患や症候について理解する。また、地域における障害児の生活像をイメージし、障害特性により起こりうる様々な生活上の課題を環境と関連づけて考えられるようになることを目的とする。	1. 発達に伴う身体・精神機能の変化および小児に多い各種疾患の概略を説明することができる。 2. 発達を考慮した診療計画を説明することができる。	○	◎	◎	○	△	○		△	△
専門基礎科目	老年期障害とリハビリテーション	理学療法士や作業療法士にとって、高齢者を対象とすることの多いリハビリテーション医療の老化および老年病を理解することは重要である。障害の原因およびリハビリテーションを進めるための配慮事項などを理解する。	1. 老化に伴う身体・精神機能の変化および高齢者に多い各種疾患の概略を説明することができる。 2. 老化を考慮した診療計画を説明することができる。	○	◎	◎	○	△	○		△	△

専門基礎科目	精神障害とリハビリテーション	精神障害の国際分類、代表的な精神障害の原因と症状、経過、予後などについて学び、身体療法とリハビリテーション、精神療法、社会療法などの各種治療法の概略を学習する。さらに精神科医療における法制度についても理解を深める。	1. 精神障害の種類、症状、経過、予後および治療法について患者に説明できる。 2. 機能・構造、活動と参加に対する専門的なアプローチ法について説明できる。		◎																○	
専門基礎科目	健康と臨床の心理学	リハビリテーション専門職として必要な知識として心理学の基本的事項を確認しながら、臨床心理学の概論として、歴史、精神医学との関係、その他治療過程で発生する可能性のある諸問題、心理的評価法や心理療法の諸技法について紹介する	1、心理学の基礎知識を理解し説明出来る。 2、臨床心理の基礎知識、アセスメント方法、介入方法について説明出来る		◎		○	△					◎		○	◎						
専門基礎科目	リハビリテーションの理念と概要	リハビリテーションとは何か、その理念と心理社会的背景、医学モデル、国際障害分類、国際生活機能分類(ICF)、社会保障を理解する。疾病と障害、人間の発達と活動、高齢化に伴う慢性疾患の増加と疾病構造の変化、リハビリテーションの意義と目的・役割、わが国の社会保障制度の変遷を理解する。	1. リハビリテーションの理念に基づいた保健、医療、福祉の在り方や思考の展開が説明できる。 2. いわゆる「リハビリテーション・マインド」を修得し、今後履修する講義や実習における基調にすることが出来る。		◎				◎		○				△						△	
専門基礎科目	リハビリテーション実践	リハビリテーションの診療過程において、障害に関して病理学的あるいは機能障害学的アプローチの基礎理論を学び、リハビリテーション領域における特異的問題や主要な障害に対する医学的リハビリテーションを理解し、疾病や障害の機能回復のみならず、障害を有する者の生活機能やQOLの維持向上を目指す専門職としての基本を学ぶ。	1. QOLを目標とした包括的な視点から障害を評価し治療計画を立案することができる。2. チーム医療においてICFに基づいた病理志向的アプローチおよび機能志向的アプローチが実践できる。			◎	◎	○			△	△		○	○	○					○	
専門基礎科目	地域包括ケアとリハビリテーション	住みなれた地域で、高齢者が有する能力に応じて自立した日常生活を営むことができるよう、医療、介護、予防と、その前提としての住まい、生活支援と福祉サービスが連携しながら在宅の生活を支えるものである。作業療法士、理学療法士が、リハビリテーション専門職として、地域包括ケアシステムを支える一員となり行動出来るよう、背景や考え方、実施内容等、必要な知識を理解し地域での活動の在り方について学ぶ。	1. 介護保険について説明することができる。 2. 効果的な医療・介護サービスの提供と地域住民も参加した地域包括ケアシステムのあり方について説明することができる。 3. 高齢者の自立した生活活動の支援内容について説明することができる				○					◎	◎	◎	◎					○	○	
科目カテゴリ	授業科目	主題	到達目標	ディプロマポリシーとの関係(◎特に重要、○重要、△望ましい)																		
				①	②	③	④	⑤	⑥	⑦	⑧	⑨	⑩	⑪								
専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅡ(専門基礎演習)	リエゾンゼミⅠで学習した、問題解決の手法やプレゼンテーション技術などを用いて、グループごとに現在の自己分析、課題分析からテーマを決め、目標設定を行う。PBL手法を用いて主体的な学習を進めていくものとする。 前半は、臨床実習に必要な対人援助技術およびコミュニケーションスキルのトレーニングを実施する。後半は、更に臨床実習に向けての知識・技術・情意面の目標を達成できることを目的としている。また、この講義では、上学年の協力を得る事で、お互いに高めあう機会も活用しながら学習を進めていく。	1. 臨床実習に必要なコミュニケーションスキルを身に着ける 2. 臨床実習に必要な基本的知識・技術を確認する		◎		○	○	○	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎					○	○
専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅢ(専門演習Ⅰ)	1年間を通して作業療法評価実習と作業療法実践実習Ⅰにむけて、作業療法学生としての態度や実践的な能力を高めることを目的とする。実習は学んだ知識を生きたものに変えていく場である。謙虚に学び、自己研鑽への努力を惜しまない専門職としての心構えを習得することに価値をおく。アクティブラーニングを活用し臨床実習に耐えうる、評価についての態度、知識、技術の習得を目指す。	1. 作業療法学生としての態度や実践的能力を高める(知識と技術の習得) 2. 評価法を理解し実施できる		◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					○	○
専門基幹科目L群	リエゾンゼミⅣ(専門演習Ⅱ)	4年次前期から始まる作業療法実践実習Ⅱに先立ち、作業療法の介入プロセス(評価、介入、再評価、再計画など)に関して、学内授業で学んだ基本的な知識や技術の総合的な演習及び実習を行う。また、これまでの臨床実習において、各学生が経験してきた内容をグループ演習で振り返り、他の学生へ伝達する。臨床実習終了後には、学生が経験した事例について、介入の意味やその有用性に関して議論する。また、作業療法実践実習Ⅰ・Ⅱで経験した事例についてさらに検討しまとめる。			◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎					○	○

専門基幹科目A群	作業療法概論	作業療法の意義と作業療法士の役割を知り、作業療法の多様性を理解する。歴史、定義、医療・福祉・保健分野での実践を学ぶことで作業療法の過去、現状、今後の発展などについて学ぶ、専門職を目指す学生としての意識を高め、「作業療法とはどのような仕事をやるのか」という疑問に答えられるようにする。	1. 作業療法(定義、実践領域、対象、具体的内容など)について説明出来る。	○	○	◎	○	◎	○	◎	△	△	○
専門基幹科目A群	作業科学Ⅰ	人と作業と環境の関係から人間の健康を考える基本的な視点を学び、作業の重要性に関して説明できる事を目的としている。	1. 人と作業、環境と健康の関連性を理解すること 2. 作業療法の基本的考え方(理論)について理解すること	◎	○	○	◎	◎	○	○	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	作業科学Ⅱ	作業科学の基本的な視点・理論と生活機能モデルの関連性を整理し、作業の有用性を生活機能や生活行為との関連から説明できること、並びに作業を用いた介入法について理解することことを目的としている。	1. 作業科学Ⅰで学んだことと評価実習で経験したこととの統合 2. 作業遂行および作業ニーズの評価法と介入法を理解する 3. 生活に関連する作業を再認識する	◎	○	○	◎	○	○	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	健康と作業	作業活動のプロセスと同時に作業療法を行う際の視点を学ぶ。また、ひとの健康的な生活を維持するためには、作業は必要不可欠なものであることを念頭に、作業活動の特性および治療的意義についての理解を深める。	1. 作業療法手段として用いられる代表的な活動について、実習を通して道具の管理、基本技術を身につけ、実践できる。	○	◎	○	○	△	△	△	○	○	○
専門基幹科目A群	生活と作業	人間の作業行為に関する生物学的、心理的、社会的、文化的関係の知識と技術の体系を習得するために、ひとが生活を維持するために必要な代表的作業の講義・実習を通して、作業の知識、技術、応用工夫、指導法を学習する	1. ひとの生活と作業活動の治療的意義について理解する。 2. 作業活動の特性を分析する視点を理解し、説明できる。 3. 作業活動に必要な工程・技法を体験し説明できる。	◎	○	○	○	◎	○	○	○	◎	◎
専門基幹科目A群	作業の評価と実践	ひとと作業活動の関連、諸科学と作業療法の結びつきを理解し、作業療法的手段として適用するための作業分析方法、指導法を学習する。さらに作業分析を行い、その治療的応用について学ぶ。	1. 運動について生理解剖学運動学等の視点で分析することができる。 2. 動作についてひとの動きと環境との関係性について分析することができる。 3. 行為について心理的社会的文化的等の視点で作業分析することができる。	◎	◎	○	△	○	△	△	◎	○	◎
専門基幹科目A群	国際作業療法学	日本の文化や制度とは異なる多様な背景をもつ対象者への作業療法について学ぶ。国際社会における医療や健康に関する問題や人権に関する現状と課題を理解するとともに、JICA海外協力隊や各国で取り組まれている作業療法士の活動を具体的に理解し、国際的に実践するための基礎的素養を身につける。	① 世界の作業療法の現状(概要と実践・教育)を理解する ② 作業療法士の国際貢献の実態について理解する ③ 国際情報に触れる方法について理解する ④ 国際交流について実際に触れてみる機会を得る	○	○	○	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	作業療法管理学	作業療法の職業管理において求められる管理業務の基本と臨床教育の基本を学ぶ。管理業務では、診療報酬や介護報酬、診療記録と書類管理(電子カルテを含む)、他職種との業務調整(処方内容の確認、他職種への申し送りなど)、作業療法機器の保守点検や安全管理、職場環境デザイン等について学ぶ。また臨床教育では、後進の育成に関する方法として作業療法士養成教育の歴史や参加型臨床実習や生涯教育制度などについて学ぶ。	1. 作業療法の実施に必要な診療報酬、記録について理解する 2. 他職種との業務調整について理解する 3. 種々の危機の保守点検と安全管理について理解する 4. 後輩育成としての臨床教育について理解する	○	○	○	○	◎	◎	◎	○	○	○
専門基幹科目A群	作業療法評価学総論	2年時以降の作業療法評価学Ⅰ、Ⅱ、Ⅲの基礎であり、作業療法評価の基本的な概念や生活機能の評価の基本的な視点の理解と面接や観察といった全領域に共通する評価技術の経験し、評価の重要性と視点に関して説明できることを目的としている。	1. 評価の概念と評価法の概要を理解する。 2. 面接や観察といった全領域に共通する評価技術を実習を通して理解する 3. 身体障害領域の評価技術を一部(関節可動域)評価法、バイタルサインなど)習得する	◎	◎	◎	◎	◎	○	△	◎	△	◎
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅰ	感覚・運動器、神経機能に関する基本的な検査法を学び、実施方法を習得するとともに、その目的を理解し対象者へ適応する際の基本的な留意点を学ぶ。	①検査目的、方法、留意事項を理解し、説明できる。 ②健康人を被験者として、適切に実施できる。 ③検査方法に関する疑問を教員に質問することができる。	○	◎	◎	◎	○	○	△	○	○	○
専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅱ	作業療法評価の目的を理解し、面接、行動観察、検査法等の、1)精神機能評価、2)高次脳機能評価の具体的方法を学ぶ。その際必要となる対象者への配慮、留意点などについて実際に考えながら演習を行う。さらに、評価手段の実施によって得られた情報のまとめ、解釈などの学習も深める。	1. 高次脳機能評価法と精神機能評価法を実施出来る。 2記録や評価のまとめを適切に書くことが出来る。	◎	◎	◎	○	◎	◎	◎	◎	◎	◎

専門基幹科目A群	作業療法評価学Ⅲ	ライフステージの中でも、小児期から青年期までに焦点をあて、運動発達、精神発達、ADLの発達の側面における作業療法評価および支援について、知識および評価技術を習得することを目的とする。また、感覚統合理論を理解し、遊びを感覚統合的視点から分析を行う。座学における講義のみではなく、実技を通して、より主体的に動くことができるようになるといった行動目標の達成も狙う。職業関連における評価および就労支援については、学生自身の職業観などディスカッションを通して学び、障害者への支援の在り方を導くことを目的としている。	1. 発達領域における基礎的な評価の知識を適切に述べることができる。 2. 運動面、認知面、感覚統合面など様々な視点での評価を実施することができる。 3. 就労支援について、職業前評価の理解および技術を体験し、実施することができる。 4. 領域ごとの就労支援について、理解を深め、説明できる。	○	◎	◎	○	○	○	◎	○	○	
専門基幹科目A群	作業療法の介入と適用	作業療法の対象となる代表的な疾患や障害特性、回復段階の異なる複数の事例について作業療法評価をまとめ、それらを基に作業療法の介入の可能性について議論し検討する。演習と発表を通して、学習を深めていく。	1.、作業療法プロセス理解し、事例について評価のまとめをICFで行うことができる 2.、事例についての作業療法計画を立案できる。 3.、パワーポイントを適切に用いて発表できる	◎	○	◎	◎	○	◎	△	◎	○	◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅰ	身体障害領域における作業療法の役割やプロセスを理解すると共に、実践で活用されている心身機能の改善に有効な理論や概念に関して、その実践的技術を含め介入の有効性を理解できることを目的としている。	1. 身体障害領域で用いられる基礎解剖学等の知識を持つ 2. 身体機能を改善する理論や実践的技術を一部経験する。 3. 整形外科疾患を中心とした作業療法の介入の視点を学ぶ	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	◎	○	◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅱ	身体障害領域で関わることの多い主要な疾患(脳血管疾患、神経筋疾患、脊髄損傷等)とその障害について学ぶ。また、作業療法の適用の理論、介入の原理や治療技法の原則について学ぶ。	1. 脳血管疾患の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を理解できる。 2. 神経筋疾患の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を理解できる。 3. 脊髄損傷の特性を理解し、その作業療法の介入の原理および治療技術を理解できる。	◎	○	◎	◎	○	◎	△	△	◎	◎
専門基幹科目A群	身体障害と作業療法学Ⅲ	各疾患の症状・障害の特性、経過、介入の流れ、考慮すべき事象など、学生自身が調べながら他の学生に教授する方法(Problem Based Learningの学習法)により理解を深める。	1. 作業療法身体障害領域で対象となる疾患について理解し、作業療法評価・介入、理論の適応に関して説明できる。	○	◎	◎	◎	△	△	△	◎	○	○
専門基幹科目A群	精神障害と作業療法学Ⅰ	精神障害の作業療法の諸理論や介入モデルを取りあげ学習する。そして、それらの学習を通して精神障害者の社会適応が可能となるような作業療法を考える視点を養い、作業療法士としての対応を考えられるようにする。	1. 精神障害に対する作業療法の諸理論について理解し、説明することができる。 2. 他者の話を傾聴することができる。 3. 理解できない事を自分で調べることができる。 3調べても分からない時は教員に質問することができる	○	○	◎	○	◎	◎	○	○	△	○
専門基幹科目A群	精神障害と作業療法学Ⅱ	精神障害領域で対象となることが多い疾患についての作業療法の実践過程と具体的方法について学ぶ	1. 精神疾患と生活障害との関係を理解し、その特徴と回復段階に応じた作業療法について説明、実施できる。 2. 臨床事例の評価、計画立案について、具体的に説明、実施できる。	○	△	◎	◎	○	△	△	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	小児期の作業療法学	発達障害における疾患特性について、知識を整理し、介入技術を実際に提供できるようにすることを目的としている。そのため、講義のみだけでなく、実技の経験授業内で経験できるようになることを目指している。また、事例検討をグループディスカッションを通して、学生同士が学びあい、臨床像を把握することを学ぶ。アクティブラーニングの形態や、映像を参考にしながら学生がディプロマポリシーに掲げている、問題解決能力などを習得できることで、対象児の将来像を創造できるようにする。	1. 発達障害領域で、作業療法士が対象とする疾患の特性を理解し、説明することができる。 2. 各疾患の病態の時期に応じた、介入の知識を説明する事が出来る。また、介入技術を実施する事が出来る。 3. 介入技術に関しては、実技練習を通して一定の技術提供を実施する事が出来る。	○	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○
専門基幹科目A群	高齢期の作業療法学	健全な高齢者、疾病や障害を抱えた高齢者など様々な「生活」がある。高齢者について、「世代：社会背景や加齢に伴う機能の変化、ライフサイクル」と、「個人：人柄や生活歴、家族や人々との関わりという個別性」を尊重した視点で理解し、対象者と取り巻く人々の安寧に役立つ作業療法支援ができることを目指す。	1. 高齢者の心身機能や発達課題の面から特性を理解し説明できる。 2. 高齢者を取り巻く人的・制度的な環境も含めて、一人の人間として全体像をとらえ、記述できる。 3. 作業療法の対象となることが多い高齢期の疾患について基本的な役割を理解し、作業療法が計画できる。 4. 予防から自立支援、作業参加の推進まで、高齢者に対する作業療法の役割を理解し説明できる。 5. 情報収集や評価を行うための基本的な技能である、交流技能の基本を経験し実施できる。	○	○	△	◎	△	◎	△	◎	◎	◎



<p>専門基幹科目A群</p>	<p>特講（作業療法）</p>	<p>キャリア教育の一環として、作業療法およびリハビリテーションに関連するトピックスを取り上げ、作業療法の実践的展開について教授する。これまでの学内および臨床教育を振り返り、作業療法およびリハビリテーションに関する知識と技術を補完し、総合的に能力を培う機会とする。さらにこれまで学習した知識と技術について、アクティブラーニングを活用し基礎・専門系領域を統合した知識および専門領域の知識として定着させる学習の機会とする。</p>	<p>1. ターミナルケアにおける作業療法の役割について説明できる。 2. 災害時における作業療法の役割について説明できる。 3. 授業で取り上げた作業療法における実践を基に、作業種目やその作業の意義について説明できる。</p>	<p>◎ ◎ ◎ ◎ ○ ◎ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎</p>
<p>専門基幹科目A群</p>	<p>卒業研究</p>	<p>作業療法研究法で履修した内容をもとに、担当教員の指導の下で各々の学生が興味を持った研究テーマを選択し（グループ研究）、研究計画を立て、文献検索、研究活動に取り組み、発表並びに論文作成までの研究課程を経験する。そのことで作業療法の学問体系や専門領域の発展に寄与する意義や、実践の中で研究活動の必要性を認識する機会とする。さまざまな問題に対し、グループ研究としてまとめ、最終学年の「卒業研究論文集」として成果をまとめ上げる。</p>	<p>1. 実践的に研究活動の流れを経験する 2. 研究の成果物として研究発表並びに論文の作成を行う</p>	<p>◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎</p>
<p>専門基幹科目C群</p>	<p>早期体験実習</p>	<p>対人支援を行う大学関連施設での早期の体験学習と、作業療法士の働く場面の見学を通して、社会人および職業人としての自覚を促すとともに、専門的知識の学習に対する興味関心を深めることを目的とする。本実習は少人数グループでの実施を原則とするが、事前の取り組みとしてグループワークを中心とした演習を行い、対象者へ関わる際の基本的な姿勢やコミュニケーション・スキルを学ぶ。事後には報告会を開催し学生それぞれの学びを共有することで、以降の主体的な学習行動へ発展させる。</p>	<p>1. 将来社会人、職業人としてのふるまいを自覚できる 2. 作業療法の学習の興味関心を深める</p>	<p>◎ ○ ○ △ ○ ◎ ◎ ◎ ◎ ○ △ ◎</p>
<p>専門基幹科目C群</p>	<p>作業療法体験実習</p>	<p>作業療法を体験し作業療法士の職務を理解する実習である。早期体験実習の次の段階として、作業療法の見学と体験を通して、より具体的に作業療法や作業療法士の職務をイメージできること、および専門技能の習得のために必要な態度を学ぶことを目的とする。学生は臨床実習指導者のチームに参加し、臨床実習指導者の指導と立ち合いの下で多様な作業療法の実践場面の見学と体験を行いながら、当該施設や作業療法の役割を理解するとともに、チームアプローチの実践を学ぶ。</p>	<p>1. 実習施設でのリハビリテーションと作業療法の役割と機能を理解する 2. 実習生としての基本的態度や資質を身につける 3. 対象者への検査や評価の一部および介入を経験し、考察できる 4. 臨床実習に向け、各グループで計画5事前学習を達成する ②実習後、経験した事例を「事例報告レポート」としてまとめることができる</p>	<p>◎ ◎ ◎ △ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ △ ◎</p>
<p>専門基幹科目C群</p>	<p>作業療法評価実習</p>	<p>対象者の目標を達成するための評価を学ぶ実習である。作業療法体験実習の次の段階として、対象者のリハビリテーションゴール（あるいは当面の方針）に基づいて実施される評価を学ぶことを目的とする。評価の体験を重視し、対象者の評価の目的と情報の解釈を学ぶ。学生は臨床実習指導者のチームに参加し、臨床実習指導者の指導と立ち合いの下で多様な作業療法の実践場面の見学と体験を行いながら、当該施設や作業療法の役割を理解するとともに、チームアプローチの実践を学ぶ。</p>	<p>1. 対象者の評価計画を立案し適切に実施出来る。 2. 対象者の評価をまとめることが出来る。 3. 対象者の作業療法計画を立案することが出来る。</p>	<p>◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎</p>
<p>専門基幹科目C群</p>	<p>作業療法実践実習 I</p>	<p>対象者の目標達成のための作業療法プロセスを学ぶ実習である。作業療法評価実習の次の段階として、対象者のリハビリテーションゴール（あるいは当面の方針）に基づいて実施される一連の作業療法プロセスを学ぶことを目的とする。本実習の前半では評価体験、後半は介入体験を通して、対象者の生活機能の統合と解釈および作業療法計画と実施の過程について学ぶ。学生は臨床実習指導者のチームに参加し、臨床実習指導者の指導と立ち合いの下で多様な作業療法の実践場面の見学と体験を行いながら、当該施設や作業療法の役割を理解するとともに、チームアプローチの実践を学ぶ。</p>	<p>1. 対象者の評価計画を立案し適切に評価法を実施できる。 2. 現場で経験した内容を記録し報告できる。 3. 評価をまとめることができる 4. 専門職としての態度や知識・技術を補完するよう努める 5. 作業療法介入計画を立案し適切に実施できる。</p>	<p>◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎ ◎</p>





専門基礎科目L群	リエゾンゼミⅣ (専門演習Ⅱ)	知識・技術関連性を理解し、EBPTをふまえて治療に関する考え方を学ぶ。また、汎用的に実践できる知識・技術に高める学修とする。	1. 評価・治療に関して根拠ある説明ができる。 2. 個人因子、環境因子を踏まえ対象者に対するアプローチを考え説明することができる。 3. 妥当性、正確性のある治療アプローチを説明し実施することができる。	◎	○	○	◎	◎	◎	○	○	○
専門基幹科目A群	理学療法概論	自らが選択した専門職について理解を深めるため、理学療法の歴史的な流れ、実際の理学療法の流れ、理学療法技術、理学療法の領域や職業倫理など、理学療法に関する概要を理解する。	理学療法の流れ、その目的・意義を解説することができる。 理学療法に用いられる様々な技術について、一般的な目的や禁忌が説明できる。 理学療法士としての職業倫理について説明することができる。 EBM[科学的根拠に基づく医療(理学療法)]について、その手段および方法について説明することができる。	○				◎	△			
専門基幹科目A群	基礎理学療法	理学療法士を目指す学生としての動機づけを様々な視点より体験する。コミュニケーションスキル、プレゼンテーション能力、PCの基本操作および情報検索、文書やレポートの書き方などの基礎を、後期実施の見学実習に向け習得する。	1. 理学療法(士)の役割を理解し、さらなる興味や向学の志を高める。 2. 大学生として、理学療法士として必要な基本的なスキルや心構えを身につける。	◎	○			◎	△	△		○
専門基幹科目A群	理学療法研究法	基本的な研究方法や分析の手法、抄録の書き方や発表の仕方を学び、将来的な学会発表等が行える能力を養う。そして、理学療法学分野とそれに関連する学際的分野における研究の意義についての理解を深める。	研究計画立案の流れを説明する事ができる。 必要な文献収集を行うことができる。 研究計画を立案することができる。	○	○	○				○	◎	◎
専門基幹科目A群	理学療法研究法演習	研究実施にあたり必須となる統計学を学び、自分自身が行う研究に対して適切な統計手法を選択できるように例題を用い実際に統計の手順を学ぶ。あわせて、論文の書き方や発表技法を学ぶ。	1. データーから適切な統計手法を選択することができる。 2. 統計ソフトを利用し、データーの分析ができる。 3. 4年次の卒業研究につながる研究計画につまとめ研究計画書の作成ができる								◎	◎
専門基幹科目A群	surface anatomy	これまでに学んだ、解剖学、解剖学実習の知識を実際に学生同士自らの身体を用いて触知、体表上に描くなど理解を深める。	1. 体表上から触診した筋肉、骨、脈管、神経が何かその名称や起始停止等解剖学の内容を説明する事ができる 2. 検査・測定時の体表上の指標を正しく触診することができる。		◎	△						
専門基幹科目A群	理学療法管理学	職場管理において求められる管理業務の基本として職業倫理、組織運営とマネジメント、職場管理、理学療法業務のマネジメントや人材育成の観点から臨床実習を含めた育成に関し教育・研究のマネジメント、さまざまな制度や、対象者の疾患・病期別の管理などについて学ぶ。	1. 理学療法部門の職場管理について説明する事ができる。 2. 教育・研究のマネジメントについて説明する事ができる。 3. 保健・医療・福祉を取り巻く諸制度について説明する事ができる。 4. 疾患別・病期別領域におけるマネジメントについて説明する事ができる。	◎				◎	◎	◎	◎	◎
専門基幹科目A群	理学療法評価学Ⅰ	病態とともに検査測定の結果の臨床的意義が理解でき疾病と障害の理解を深め、理学療法を進める思考過程での理学療法評価の位置づけを理解し、評価における目的、方法、意義、そして基本的な流れを学習する。	各種検査・測定の目的、意義を説明する事ができる。 医療面接、観察、関節可動域測定、徒手筋力測定、筋緊張、腱反射の目的を説明する事ができる。 関節可動域測定、徒手筋力測定、筋緊張、腱反射の測定(実技)が適切にできる。		○	○	○	◎				
専門基幹科目A群	理学療法評価学Ⅱ	主に神経系疾患の評価を行う際に必要となる代表的な検査・測定内容、情報収集の意味と具体的な方法論を学ぶ。同時に、それらの検査・測定の技術を正確かつ手早く実施できるよう実技練習を行っていく。	1. 様々な検査・測定技術を学び、それらを適切に遂行できる。 2. 収集した様々な情報やデータを分析し、個々の状態像を統合・解釈できる。		◎	◎	○	△			○	△
専門基幹科目A群	画像診断学	医師など他の医療スタッフと共通の認識を持ち、障害の理解のため単純X線撮影やCTなどの放射線を用いた検査法や超音波検査や磁気共鳴検査(MRI)といった画像検査があり、各検査によって得られた画像を通して正常な状態での解剖について2次元・3次元でイメージでき、画像の所見と障害部位について理解できるよう学修する。	1. 画像診断の原理について説明ができる 2. 脳血管障害の画像について説明する事ができる。 3. 中枢神経疾患の画像診断について説明する事ができる。 4. 脊椎・脊髄疾患の画像診断について説明する事ができる。 5. 上肢・下肢疾患の画像診断について説明する事ができる。		◎					○		
専門基幹科目A群	運動動作分析学	正常な身体運動の基礎知識と分析技術を確認するとともに、さらに多彩な運動や動作パターンの分析について、運動力学を常に想起しながら、主に基本動作を中心とした分析の手順を学ぶ。実習やビデオ観察により運動の具体的な記載法を練習し、異常動作の特徴や原因を理解する。	1. 運動や動作の観察と分析が適切にできる。 2. 専門用語を用いて、適切に運動や動作を表現できる。 3. 異常動作の特徴や原因を述べることができる。		◎	○	○	△				○





専門基礎科目A群	理学療法士の社会活動	理学療法士は病院・施設のみならず、行政からの依頼、地域で開催される健康支援に関するイベントなど、社会の様々な場面で必要とされ、そのニーズに対応している。理学療法士の専門性を踏まえながら、理学療法が社会の中で果たすべき役割を学ぶ。	1. 社会が求める理学療法士の役割について説明することができる。	◎									○		○	△
専門基礎科目C群	見学実習	リハビリテーションの実際の見学を通して、対象疾患を知り障害の概念を把握する。また、理学療法部門の位置づけ(他部門との関わり方)や臨床業務全般、組織(病院・施設)の運営について学び理学療法士の役割を体系的に理解する。コミュニケーション能力や専門職として求められる素地を養い、理学療法士になることの動機づけを高めることを目的とする。	1. 理学療法士の役割を説明する事ができる。 2. 良好な関係を構築できるよう、積極的にコミュニケーションを取ることができる。 3. 理学療法の対象者の障害を説明する事ができる。 4. 対象者との信頼関係を形成することができる。 5. 理学療法士になることの動機づけを高めることができる。	◎	○			◎	○						◎	
専門基礎科目A群	理学療法評価実習	疾患の臨床像をとらえ、対象者の評価に必要な検査・測定項目を実施し、その結果から対象者の病態・障害像について分析・解釈し、問題点をあげる。	1. 系統立てて問診し、評価に必要な検査・測定項目を列挙、優先性を決め実施することができる。 2. 検査・測定結果やその他の情報をもとに対象者の病態・障害について分析・解釈することができる。 3. 対象者の情報をもとにした統合・解釈から問題点を列挙することができる。	◎	◎	◎	◎	◎	○	○	△				◎	
専門基礎科目C群	理学療法実践実習Ⅰ	各臨床実習施設において8週間の総合実習を経験する。臨床の現場において検査・測定、記録、統合・解釈、理学療法プログラムの立案までの一連の過程を経験する。	1. 指導者の助言、指導のもと、検査・測定、記録、統合・解釈、理学療法プログラムの立案までの一連の過程を遂行できる。	◎	◎	◎	◎	○	○	○	○	○	○	○	◎	
専門基礎科目C群	理学療法実践実習Ⅱ	基本的な理学療法の実践にむけ、問題点及び目標設定から優先性を考慮し理学療法プログラムを立案し、理学療法治療・指導計画に基づき、指導者の指導のもと基本的な理学療法を経験し、医学的側面だけでなく対象者を包括的にとらえることを目的に行われる。	1. 理学療法プログラムの立案、自らが立案した理学療法プログラムを臨床実習指導者のもとで実施し、必要に応じ理学療法プログラムの変更ができる。 2. 記録・報告ができる。 3. 安全への配慮を行う事ができる。	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎
専門基礎科目C群	地域理学療法実習	通所リハビリテーションまたは訪問リハビリテーションにおける対象者支援を経験することにより、地域における対象者の生活支援のためのアセスメントや具体的支援のための方策について、地域における対象者を取り巻く多様な課題に関心をもち、理学療法士の視点による援助方法の実際を学ぶ。	1. 生活支援のためのアセスメントの内容を提示し実施できる。 2. 具体的支援のための方策を示すことができる。	◎	○	○	○	○	◎	○	○	◎	○		◎	○
専門基礎科目C群	救命救急法	医療の一環を担う職務に従事するものとして、救命救急処置法を熟知することは肝要である。さまざまな緊急事態とその原因、危険因子を挙げ、それらに迅速かつ確実に対応する救急処置法について学び、その技術を体得する。	1. 日常生活やスポーツ現場において起こりうる緊急事態や傷害について、理解し、説明できる 2. AEDを用い一次救命処置(BLS:Basic Life Support)ができる。 3. 傷病者の搬送および、巻輪帯や三角巾を用いて傷の手当てができる。 4. スポーツ現場での応急処置としてのRICE処置を説明でき、実施できる。 5. 喀痰吸引について理解し、実施できる	○	◎	◎	○	○	○	△			◎	○		
専門基礎科目C群	地域生活と住環境	対象者の「参加」をテーマに、具体的な事例や自身の生まれ育った地域、住まいなどを題材に、対象者の住む地域および住環境について理解を深める。	①学生自身が生まれ育った地域の社会資源を列挙できる。 ②学生自身の住まいについての環境評価ができる。 ③障害モデルを想定し、大学キャンパス内の環境評価ができる。	○		◎		◎		○	◎	◎	◎	○		
専門基礎科目C群	災害リハビリテーション	災害時における、発災以降の経過を追い必要な援助ならびに医療専門職として二次的な障害を防止する手段などを学ぶ。様々な状況を設定し、障害を防止するために何ができるかグループ学習等を実施し学ぶ機会とする。	1. 災害時のリハビリテーションの役割を考える 2. 二次的障害の防止のための手段を問う	◎	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	◎	
専門基礎科目C群	実践教育方法論	教育方法論や教育原理に基づき、人材育成や患者教育、多職種教育などリハビリテーションに関する知識や実践移管する情報を伝えるための教育計画ならびにその実践の経験を積むことを目的とする。その中で、実践面で役に立つ知識・技術を修得し、指導のあり方(指導・支援上のコミュニケーション含)等について理解を深める。	1教育方法論を効果的リハの実践に応用できる 2. 学生教育や対象者に適用できる指導の在り方を考えることができる	◎	△	△	△	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎	◎